



考え



第始終回『世界の終わりとカールスモーキー・ワンダーランド』

ワンダーランド

ちようどこんな  
表紙の色の眼鏡

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

夜遅めに帰って飯食いながら観るともなしにNHK流してたら、いつの間にかセカオワのボーカルがカールスモーキー石井になってた。つまりFUKASE、だいぶカール寄りだったって意味ね。

あれかね、俺がセカオワの特集に油断しすぎた罰かねと思ってちょっと検索したら結構、他にも同じ評価がネットでもチラホラあった。

いや、音楽については何も書くことない。歌詞も練られてる。「人を助けることは義務じゃない」ってなんかタイムリーだし、疲れてささくれ立ってた俺にも素直に入った。そこは置いて。

ああいうアーティスト的な人ってのは結局、カールスモーキー石井を目指すんだろうか。あの手の人にだけ炎と森のカールスモーキー山脈が見えるから登るんだろうか。

「バンドすごろく」で言うところの（まったくうろ覚えの妄想すごろくだけど）、まずははじめからの精神病棟入院あたりがスタートで、メンバーと出会って共同生活始めてライブハウス作って、富士急で大掛かりな赤字のセット組んだり海外でもライブとかいろいろあって、最終的にはボーカルが「カールスモーキー石井化」したらあがりっていう。

そういう意味ではチェッカーズもちゃんとフミヤートであがったよね。GACKTも河村隆一もそれっぽくあがってる。よかった。

ただどうも、セカオワだけあがり微妙なんだよ。なんでだろうって考えるとこがウマシカだけどまさに、ってか考えるまでもなくオールバックっぽい髪型と色眼鏡が全然似合っていないんだよFUKASE。

そこさえつじつまが合ったらすんなり終わる話なのにさ。SEKAIはOWAっても、あのIROMEGANEではOWARUものもOWAREないっていうさ。

今回は40回ずっと始終ウマシカ話バツカって意味で、あっさりこんな感じ。カールスモーキーとFUKASEが共同で作ったオブジェがオリンピックに似合いそうってくらいのOCHIだよ。

どうかな？ ってほどでもないね。



そういえばノーベル文学賞だけど、福島の小児甲状腺ガンをテーマにして受賞する時期が来るか、もう遅いくらいだろう。これも40回ずっと始終言い続けてるワケだが。

今時点で174人の子供たちは結局宙ぶらりんのまま、御用学者同士で手術するしないって、時間稼ぎと責任のなすりつけ合いがずっと続いている。

学者にとっちゃ単なる数字でしかない無名の子供たち、一人一人について考え表現してこそその文学だと俺は思うけど。数字で語る以外の表現が文学にはあるはずなのにね。

考えるウマシカ～第始終回『世界の終りとカールスモーキー・ワンダーランド』～

<http://p.booklog.jp/book/110455>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/110455>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/110455>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ